TOYOTOMI
トヨストーブ
ホワイトクリーン®

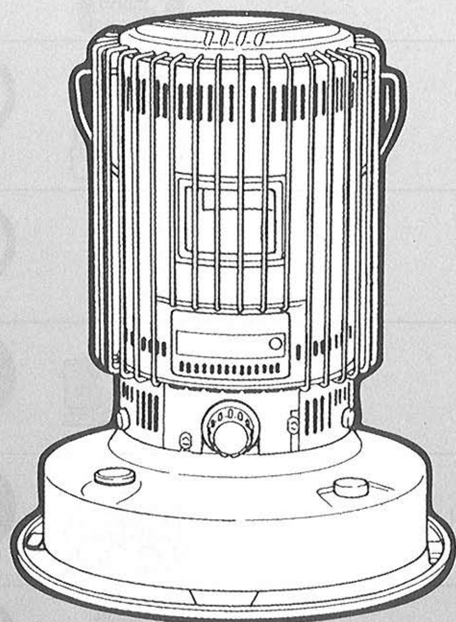
取扱説明書

型式 **KS-67A**
ケー エス エー

自然通気形
開放式石油ストーブ
日本工業規格品

このたびは本品をお買いあげいただきまことにありがとうございます。

- ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご相談ください。



もくじ

お使いになる前に
使いかた
お手入れ・保管

⚠危険



ガソリン使用禁止
使用燃料:灯油
KEROSENE ONLY

⚠警告



換気必要
1時間に1〜2回
寝るとき消火
給油時消火

⚠注意
変質した持ち越し灯油
使用厳禁

株式会社トヨトミ

V02-1 0553000903

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

(禁止の絵表示)	この絵表示は、「禁止」されている内容です。	(注意の絵表示)	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
(指示の絵表示)	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。		

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しく使用していただくための内容が記載されています。

⚠危 険(DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。



⚠警 告(WARNING)

★換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。
  酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
  (窓の凍結、地下室など)換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。



★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



★カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
ストーブの周囲に可燃物を置かないでください。
ストーブの熱気で着火して、火災の原因になります。



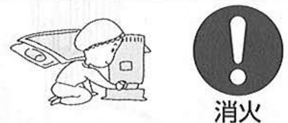
★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
乾燥するとストーブの熱気でゆれて落下して、火災の原因になります。



★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。



★給油時消火

給油は、必ず消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
火災の原因になります。



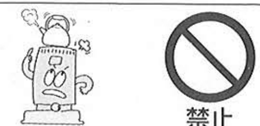
★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



★やかんのせ禁止

やかんやなべなどをのせないでください。
振動や接触によって、やかんの落下や、やかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



⚠注意(CAUTION)

★居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。



★変質灯油禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)を使用しないでください。
異常燃焼や故障(しんが下がらない、点火できない、火が消えない)の原因になります。



★燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。





★移動・運搬するときの注意

- ストーブを移動させる場合は、必ず消火し、ストーブの温度が充分に下がってから、つり手を持ち製品をつり下げて傾けないように静かに移動してください。
  つり手を斜め、横方向に倒して持ち上げると、つり手が抜けて製品が落下して危険です。
- 修理・引越しなどで、ストーブを運搬される場合は、電池ケースから乾電池を取りはずして、油タンクの灯油を抜いてください。
  運搬の途中で灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。





★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の状態など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。





★窓雲母の破れ使用禁止

炎筒の窓雲母が破れたり、穴があいた状態では、絶対に使用しないでください。
異常燃焼を起こしたり、すすが発生するおそれがあります。



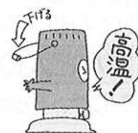
★正常燃焼の確認

燃焼中は時々炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て異常燃焼を起こして危険です。



★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、天板(上面)やガードに手などふれないように注意してください。
燃焼中は必ずつり手を降ろしてください。
やけどのおそれがあります。





★ふく射熱に長時間あたらない

ストーブの間近でふく射熱に長時間あたりつづけると、低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
とくに、幼いお子様やお年寄り、病気や体の不自由な方などの暖房には充分に注意してください。



★ほこりの除去

置台、製品内部のほこりをときどき除去してください。
油タンクの下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙、ビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼や火災の原因になります。



★対震自動消火装置の作動確認

使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、対震自動消火装置を作動させて確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。



★純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず**トヨストーブ**純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、ストーブの性能を損なうばかりでなく、故障や予想できない事故が発生するおそれがあります。



★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら使用しないでください。
ストーブは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。



⚠注 意(CAUTION)

★お子様やお年寄りのご使用に注意



お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、ストーブの取扱い、部屋の換気、高温部への接触による やけど、低温やけどや脱水症状などについて、周囲の人が充分に注意してください。

★保管時にしていただくこと



- 長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
  火災のおそれがあります。
- しんの手入れ(から焼きクリーニング)は、風があたる場所ではおこなわないでください。
  火災のおそれがあります。

★廃棄するとき



ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。(14ページ参照)
灯油や乾電池が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

★次の場所では使用しない



火災や予想できない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所
- 傾斜した場所や振動の激しいところでは、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな床面で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上で使用しないでください。
  転落したり、火災になるおそれがあります。

暖炉などストーブが囲われる場所
- 暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。
  火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所
- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
  燃焼用空気(酸素)を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

温室・飼育室など人のいない場所
- 使用環境の変化で、予測しない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外
- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。
  炎が出て危険です。掃除機の排気があたらないよう注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用しないでください。
  転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下
- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所
- 異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

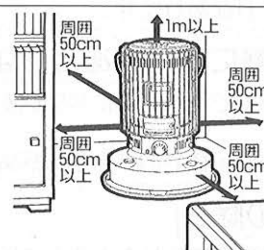
可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所
- 爆発や火災の原因になります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所
- 化学薬品がストーブの熱で変化し、器具の故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す



- ストーブから可燃物との距離は、右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
- ストーブ上方の棚などとの距離は必ず1m以上あけてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- カーテンなどがストーブにふれないようにしてください。
- 家具等からは右図の指定以上の距離をとってください。
  (熱で変形や変色、自然発火することがあります。)



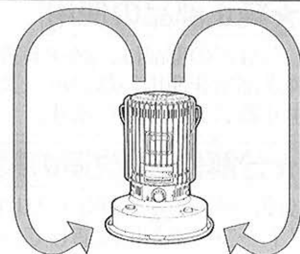
お願い(NOTICE)

★灯油の廃棄 ● 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

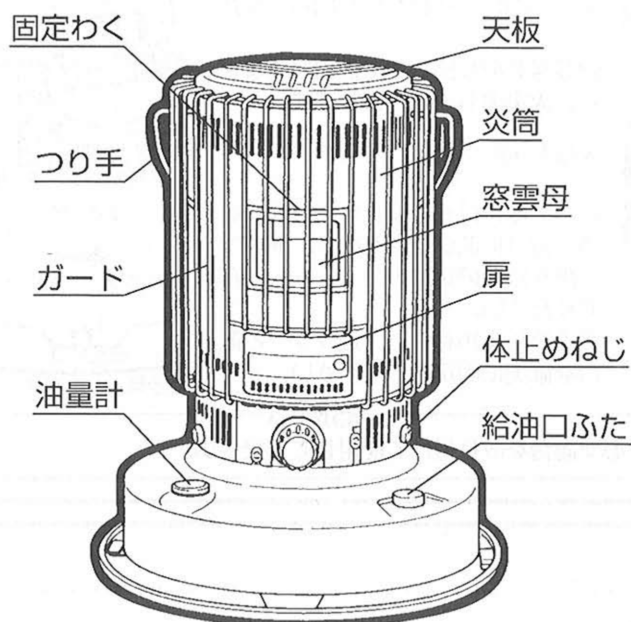
★効果的に使用するために

- このストーブは、なるべく部屋の中央に置いていただきますと、対流効果によってお部屋の温度のムラが少なくなり、効果的な暖房ができます。
  (ただし、部屋の出入口や人の通る場所、風のあたる場所、可燃物のそばには置かないでください。)
- お部屋の空気をサーキュレータなどで対流させますと、お部屋の温度のムラがより少なくなり、効果的に暖房ができます。
  (このときストーブには直接風があたらないようにしてください。)

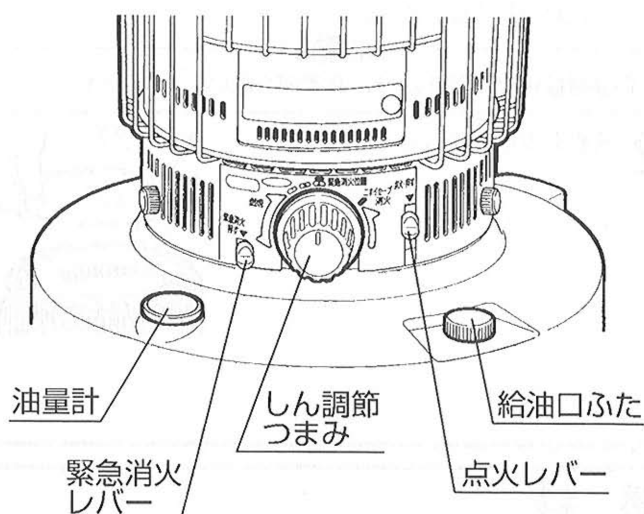


各部のなまえ

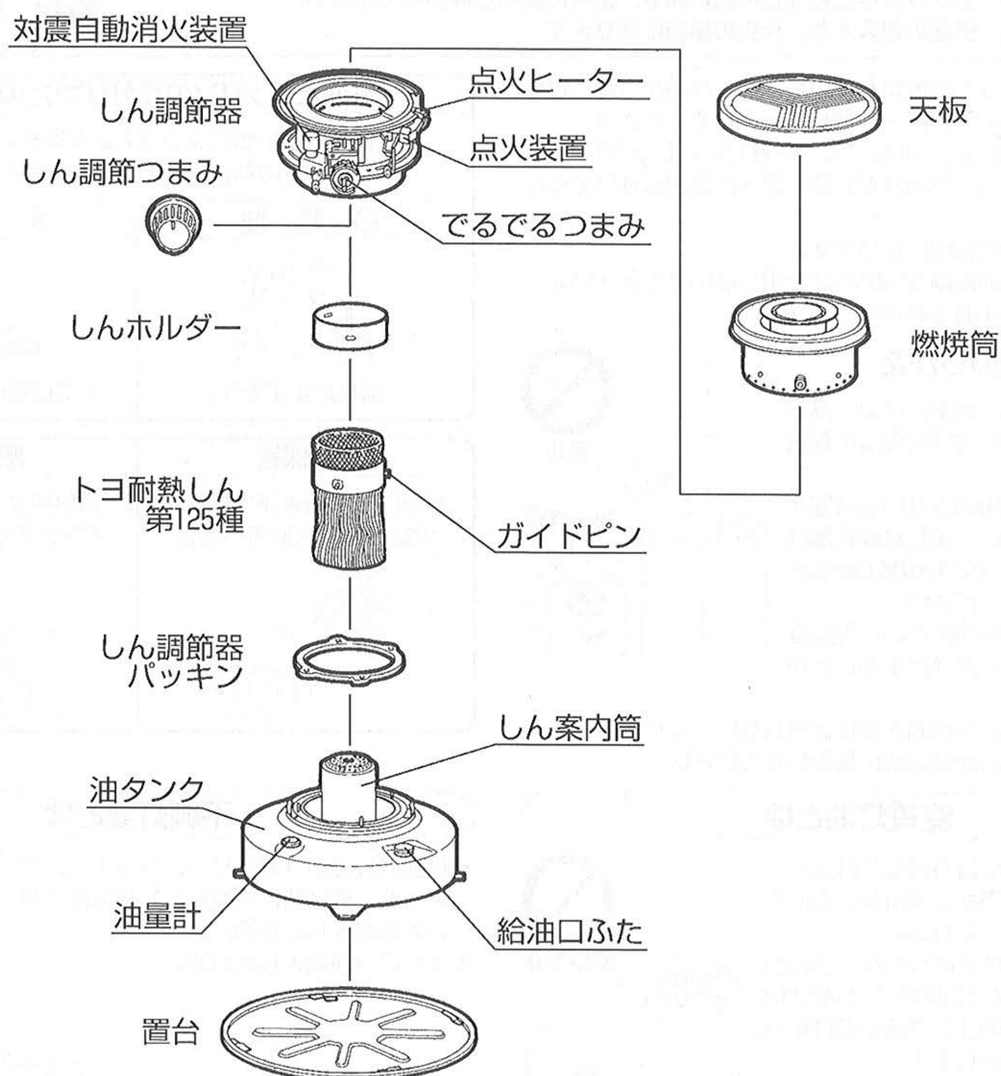
外観図



操作部



構造図

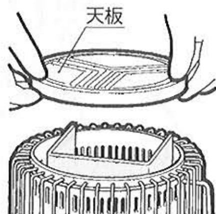


ストーブを取り出す

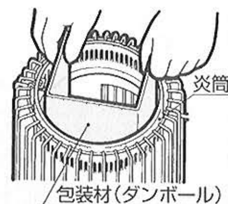
1 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材を取り除き、製品を傷付けないように取り出してください。

お願い
包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

2 天板を取りはずしてください。

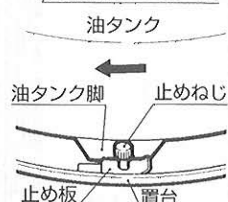


3 炎筒内部の包装材を取り出してください。
包装材を取り出さずに使用されますと、火災のおそれがあります。



4 天板を炎筒にかぶせてください。

5 置台に取付けてある止めねじをゆるめ、置台に油タンクをのせ、油タンク脚を置台の止め板の下に押し込んでください。
ゆるめた止めねじで、油タンクと置台を確実に固定してください。



お願い
必ず置台を取り付けて使用してください。

燃　料

◉燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠危険	**★ガソリン使用禁止** **ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。** **少量の混入でも、火災の原因になります。**





- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときは、あわてずに緊急消火レバーを押して消火してください。
- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)は、絶対に使用しないでください。
  異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤(添加剤)は使用しないでください。
  異常燃焼を起こすおそれがあります。

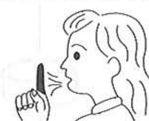
◉灯油の保管のしかた

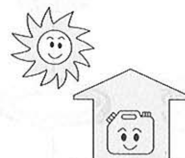
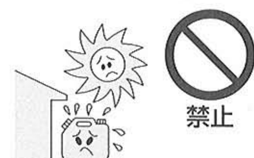
- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油の容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずJIS認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。



灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
(火の気のない所でおこなってください)

○　灯　油	×　ガソリン
 濡れたままです。	 すぐに乾いてしまいます。

良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管
	 禁止

変質灯油とは

- 古い灯油。(ひと夏持ち越した灯油)
- 長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。
- 変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。



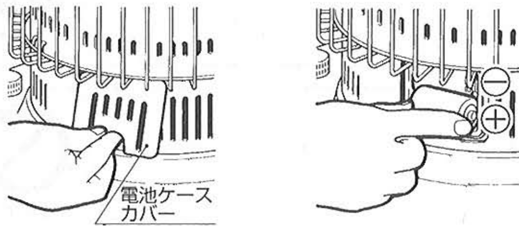
不純灯油とは

- 灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。



乾電池を取り付ける

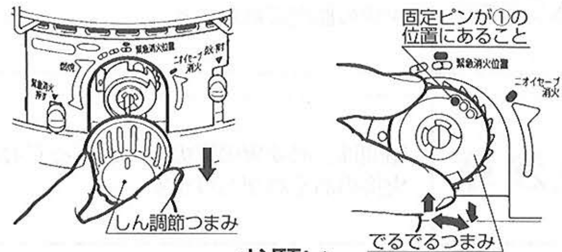
- 乾電池は別売です。
- 電池ケースカバーを取りはずし、市販の単二形乾電池（2個）を購入して、炎筒側面の電池ケースに、⊕⊖を正しく合わせて入れてください。



- 新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しますと、点火できなかったり、点火しにくくなったり、液漏れや破裂する原因になります。

でるでるつまみの位置の確認

しん調節つまみを引き抜いて、内部にある**でるでるつまみ**の①の位置に、固定ピンが入っていることを確認してください。違っていましたら①にはめ替えてください。
（詳しくは、10ページをお読みください。）



お願い

製品の輸送中に生じた炎筒の破損、燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。

変質灯油・不純灯油の見分けかた（コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。）

水と同じ無色透明なら正常。



少しでも色がついていたら使用しない。





- 変質灯油や不純灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。

変質灯油や不純灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油を使用しますと、しんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、しんが上下しにくくなったり、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。



万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1. 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
（悪い灯油が残っていると再発します。）
2. しんの手入れ（14ページ参照）を見て、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、から焼きクリーニングをおこなってください。
3. しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
替えしんについては、販売店までお問い合わせください。

お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

給油のしかた

●ストーブを使用するときは、ときどき油量計を見て、灯油があるかどうか確認し、油量計の針が「0」の位置を示す前に給油してください。

⚠警告

給油は、必ず消火して、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
火災の原因になります。



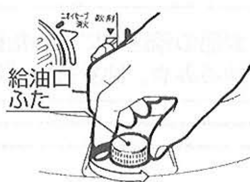
⚠注意

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。



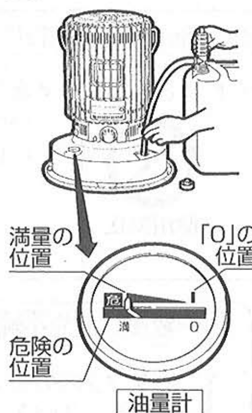
1 給油口ふたを開ける。

給油口ふたを、左（↺）に回して取りはずしてください。



2 油量計を見ながら給油する。

- 市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。
（ホースが抜けないように手で固定しながら給油してください。）
- **灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。**
「危」の位置まで入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分注意してください。
床を汚したり、臭気や火災の原因になります。

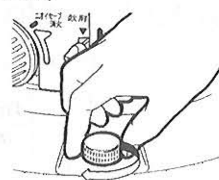


お願い

- **オート給油ポンプを固定する場合は、ホースを油タンクにクリップで固定できないので、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら使用してください。**
- オート給油ポンプの「満量位置」の調節は、ポンプの取扱説明書に従っておこなってください。

3 給油口ふたをしっかり締める。

- 給油口ふたを、右（↻）に回してしっかりしめてください。
- 灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。



4 こぼれた灯油はよくふき取る。

- こぼれた灯油は必ずきれいにふき取ってください。
危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

点火前の準備と確認

水平の確認

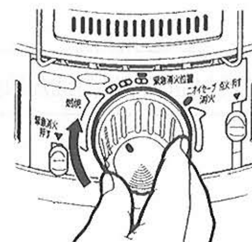
●水平な場所で使用してください。

ストーブは、必ず水平な安定した場所で使用してください。
ストーブが、傾いていないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
ストーブを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。また、転倒しやすくなったり、異常燃焼の原因になります。

対震自動消火装置のセット （再セットする場合でも同じ手順です。）

●しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

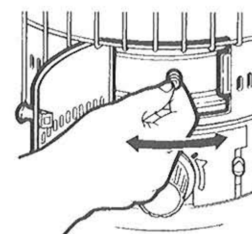
- しん調節つまみを、**「燃焼」**の方向（↻）に、ゆっくり止まるまで回しますと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。
- 対震自動消火装置をセットするときには、「カチカチ」と音がして、少し重くなります。



点火前の確認

●燃焼筒のセットを確認する。

- 点火操作をする前には、必ず、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かして、スムースに動くことを確かめてください。
- ストーブの上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことを確認してください。
可燃物があると火災になるおそれがあります。



点火のしかた

お願い

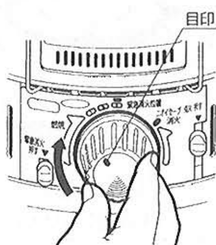
使い始めや、しんの交換後、しんの手入れ（から焼きクリーニング）をしたときは、給油後約15分以上待って、しんに充分灯油が吸い上げられてから点火してください。充分に吸い上げられていない状態で点火しますと、点火ヒーターのフィラメントを変形させたり、しんを傷めます。

- 初めてお使いになるときは、点火後、機器に付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらく使用していただければにおいはなくなります。
- 点火後しばらくの間は、炎が安定せず、「ボッ、ボッ、ボッ」と燃焼音がしますが、異常ではありません。しばらくすると炎が安定し、音がしなくなります。

電池点火のしかた

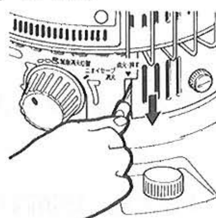
1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

- しん調節つまみの目印を、「燃焼」の方向（↻）にゆっくり止まるまで回してください。（しんが上がります）
- しん調節つまみの目印が飾板に書いてある「でるでる芯」①の位置で止まります。
- しん調節つまみの目印は、回し続けますと、ほぼ真上まで回りますが、手をゆっくりはなすと「でるでる芯」①の位置まで戻ります。
（10ページ でるでる芯の使いかた 参照）



2 点火レバーをゆっくり押し下げる。

扉を開け点火レバーを「点火」の方向（⬇）に、ゆっくり押し下げてください。（点火します）

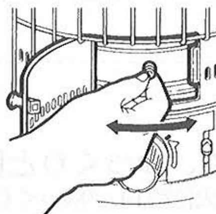


3 火が着いたことを確認し、点火レバーを戻す。

火が着いたことを確認したら、手を点火レバーからゆっくりはなしてください。

4 燃焼筒のセットを確認する。

点火操作後、燃焼筒つまみを左右に２～３回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。



5 扉を閉める。

扉を閉めてください。扉を開けたまま使用すると、風の影響をうけて異常燃焼を起こすおそれがあります。

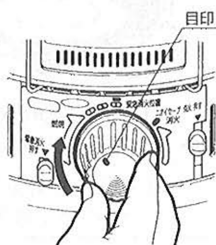
お願い

- **点火ヒーター付近から白煙が出て点火しにくいときは、点火レバーを少し戻すと点火しやすくなります。点火ヒーターのフィラメントを、しんから１～1.5㎜離すのが一番点火しやすい位置です。**
- 点火操作をしたとき、点火ヒーターの赤熱が不充分で点火しにくい場合は、新しい乾電池〔単二形乾電池：２個〕をご購入のうえ交換して使用してください。
（６ページ 乾電池を取り付ける を参照）

電池点火が使えないとき

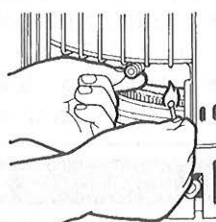
1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

しん調節つまみの目印を、「燃焼」の方向（↻）にゆっくり止まるまで回してください。
（しんが上がります）



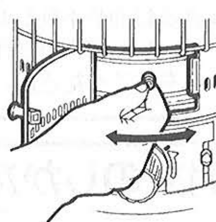
2 扉を開けて、マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 扉を開けて、燃焼筒つまみをゆっくり持ち上げて、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- たばこ用のライターで点火しないでください。
- **マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすを、しん付近や機器内に落としたり、置台の上に置かないでください。**



3 火が着いたことを確認し、燃焼筒のセットを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に２～３回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。
- 火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ（点火した火が消えない程度に）消火の方向に回してみて、引っかかりがなくスムースにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
しん調節つまみがスムースに回らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。
- ライターをストーブの周囲に放置しないでください。



4 扉を閉める。

扉を閉めてください。扉を開けたまま使用すると、風の影響をうけて異常燃焼を起こすおそれがあります。

炎の調節のしかた

炎の調節

- 炎の調節は、しん調節つまみを回しておこないます。
- しん調節つまみを回して炎を調節するときは、 炎の状態 のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の範囲で使用してください。

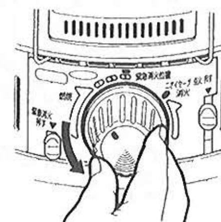
炎の状態

最大正常燃焼のときの炎の長さは、内炎板から３～４㎝です。

異　常	正　常	正　常	異　常
炎　×	内炎板　3〜4cm　○	1cm　○	×
しんが上がり過ぎ（炎が大きくなりすぎている）	最大正常燃焼	最小正常燃焼	しんが下がり過ぎ（炎が出ていない）
すすや一酸化炭素が多く発生する	炎が内炎板から３～４㎝出る状態	炎が内炎板から１㎝出る状態	においや一酸化炭素が多く発生する

◉炎の大きさは上図のように、正常燃焼の範囲でご使用ください。

- 点火後２分ほどで、炎が上がってきます。しばらくすると炎が長く伸びてきます。炎が勢いよく環状に、斜め上方に燃え上がるのがよい状態です。
- 室内温度が上昇して炎が大きくなりすぎて、すすが出ることがありましたら、しんを下げて炎を調節してください。
- 燃焼中は、時々炎を見て、正常燃焼であることを確認してください。
  正常燃焼でないときは、炎の調節をしてください。



火力を弱くする場合の注意

- 火力を弱くした場合でも、炎が内炎板から１㎝出る状態で使用してください。
- あまり火力を弱くすると、においや一酸化炭素が多く発生し、しんにタールが付着します。

しんの高さ調節（でるでる芯）について

使用時間の経過につれて、しん調節つまみを回してしんをいっぱいに上げても、燃焼筒やしんの劣化などで炎が大きくならないときは、10ページの でるでる芯の使いかた の項を参照して、しんの高さの調節をしてください。

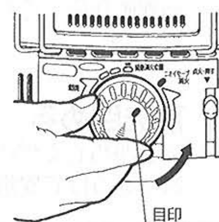
- 変質灯油や不純灯油を使用してしまい、しんにタールが付着したり、水を含んでしまったときは、炎が大きくならないとともに、しんの上下操作が重くなります。このようなときは、14ページ 保管 **２しんの手入れをする** の項を参照してしんの手入れをしてください。

消火のしかた

通常の消火の場合

1 しん調節つまみを、「ニオイセーブ消火位置」まで、ゆっくりと回す。

しん調節つまみの目印を「消火」の方向（↶）へ**「ニオイセーブ消火位置」**までゆっくり止まるまで回してください。（速く回すとにおいが出やすくなります。）



2 消火を確認する。

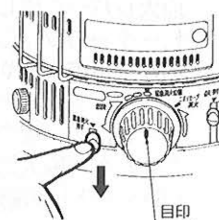
- においを少なくするため、４分程燃焼（炎が一部残る）して消火します。
- しん調節つまみの目印が**「ニオイセーブ消火位置」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。

緊急の消火の場合

◉緊急消火レバーを押し下げる。

緊急消火レバーを押し下げて、対震自動消火装置を作動させてください。
このとき急速に消火させるため、においやすすが発生することがあります。
しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。

- **しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを回して、しんを下げてください。**
  それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。



消火のしかた



● 時間に余裕がない場合は、炎筒の穴からコップ2杯(400mℓ程度)の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たり、炎筒のホーローが欠けることがあります。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。また、あとで油タンク内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

● **しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、しんの手入れ (14ページ参照)をおこなうか、新しいしんに交換してください。**

消火後再点火するときの注意

消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気がでたり、点火しないことがあります。

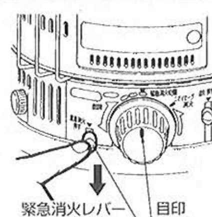
でるでる芯の使いかた

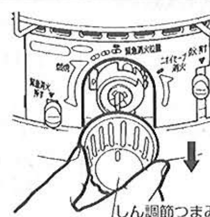
しん調節つまみを回してしんをいっぱいに上げても、燃焼筒の酸化、しんの劣化などで炎が大きくならないときは、**でるでるつまみ**を操作して、しんの高さの調節をしてください。

お願い

● 購入して初めてお使いになるときや、新しいしんに交換したときなど、炎が充分に出ているときに、**でるでるつまみ**を②や③へはめ替えると炎が大きくなりすぎ、すすが発生します。
炎が大きくならない時以外は、**でるでるつまみ**を①で使用してください。

● 不良灯油や変質灯油を使用して、しんに水やタールが付着したときは**でるでるつまみ**を操作しても効果がない場合があります。その場合は14ページ [保管] **2 しんの手入れをする** の項を参照してしんの手入れをおこなってください。それでも良くならない場合は、新しいしんに交換してください。



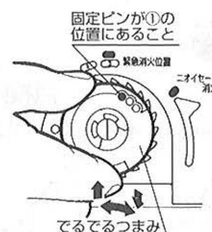


1 緊急消火レバーを押し下げる。

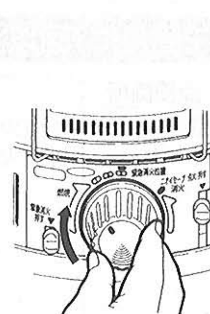
対震自動消火装置を作動させてください。
対震自動消火装置を作動させてしんを完全に下げた状態にしないと、**でるでるつまみ**をはめ替えることができません。

2 しん調節つまみを引き抜く。

でるでるつまみを引っ張り、**でるでるつまみ**の②または③印の穴のいずれかを、固定ピンの凸部にはめ替える。
①から②の穴へ、②から③の穴へはめ替えることにより、しんの高さはそれぞれ約2mm高くなり、炎が大きくなります。
逆に、炎を小さくする場合には、③を②に、②を①にはめ替えます。



でるでるつまみの位置	①	②	③
しんの高さ	約8㎜	約10㎜	約12㎜



3 しん調節つまみを取り付ける。

でるでるつまみを①から②または③にはめ替えますと、点火の際しん調節つまみを回したとき、しん調節つまみの目印の止まる位置が、飾板に書いてある「でるでる芯」の②または③位置にかわります。

対震自動消火装置

● **対震自動消火装置は、ストーブ本体が地震(震度約5以上)や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。**

● **地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。**

対震自動消火装置の取扱い上の注意

● 通常の使用時には、しん調節つまみを回して消火してください。消火の際に対震自動消火装置を作動させますと、においが発生します。

● ストーブを持ち運んだり、ずらしたり、掃除するときなどは、しん調節つまみで消火した後、緊急消火レバーを押し下げて対震自動消火装置を作動させ、しんを完全に下げてからおこなってください。

● ストーブを長い間使用しないときは、対震自動消火装置を作動させ、しんを完全に下げた状態にしておいてください。セットしたまま放置しますと、対震自動消火装置の寿命に悪影響をあたえます。

● ふきこぼれやすい牛乳・鍋物の煮たき(保温)に、ストーブを絶対に使用しないでください。

● しんにタールが付着して固くなっていたり、水を含んでいると、しんの上下操作が重くなり、対震自動消火装置が作動しても消火性能が著しく悪くなり、火災の原因になります。

点検・手入れのしかた

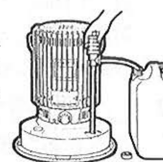
点検・手入れをおこなうときは

- ストーブを消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。
- 手をけがしないように手袋をはめて、おこなってください。
- 対震自動消火装置の取りはずし、分解はおこなわないでください。
- 必ず乾電池を、電池ケースから取りはずしてからおこなってください。

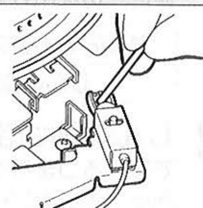
使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
ストーブの周囲	●ストーブの周囲に可燃物や障害物がありませんか。[火災の原因になります]	●常に整理・掃除をし可燃物をストーブの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、置台の表面に、油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。[火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油漏れはありませんか。[火災の原因になります]	●油が漏れている場合は、すぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。
窓雲母	●破れたり、穴があいていませんか。[異常燃焼の原因になります]	●13ページ **窓雲母の交換のしかた** を参照して、新しい窓雲母に交換してください。

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
ほこり 燃焼用空気取入部（しん案内筒下部）	●置台にほこりがたまっていませんか。 ●置台の上に物が入りこんでいませんか。[異常燃焼や火災の原因になります]	●置台を取りはずし、たまったほこり、ごみなどを掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。
対震自動消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動します。そのときしんが下がり、しん調節つまみが**「緊急消火位置」**の位置に戻りますか。[確実に消火することを確認]	●しん調節つまみが**「緊急消火位置」**に戻らない場合は、**しん**、**感震部**の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼をしてください。
油タンク	●油タンクに水やごみがたまっていませんか。[しん上下の操作が重くなったり、錆や油漏れの原因になります]	●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを、吸い出してください。 

2箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
点火ヒーター	●点火しない。あるいは、点火しにくくありませんか。[点火ヒーターを点検] ○ 正常 フィラメント 点火ヒーター ／ × ／ × ／ ×	●点火ヒーターのフィラメントが変形している場合は、必ず電池ケースから乾電池を抜いてからマッチ棒などで、図のように軽く修正してください。  ●変形がひどいものや、断線している場合は13ページ **点火ヒーターの交換のしかた** を参照して、新しい点火ヒーターに交換してください。
乾電池	●点火ヒーターのフィラメントは充分に赤くなっていますか。[乾電池の電圧（消耗）点検]	●赤熱不足の場合は、6ページ **乾電池を取り付ける** を参照して、新しい乾電池に交換してください。
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に燃えかすや、すすが付着していませんか。[異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすや、すすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 **しんにタールが付着していると、次のような不具合が発生します。** ●消火操作をしても、しんが下がらず、消火しない。 ●しん上下の操作が重く、スムースにできない。 ●点火操作をしても、点火しない。あるいは、点火しにくい。 ●炎が大きくならなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、14ページ **保管** 2 **しんの手入れをする** に従って、しんの手入れをおこなってください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。

点検・手入れのしかた

2箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
感震部	●感震部にごみの付着や錆はありませんか。 ［対震自動消火装置が正しく作動しません］ （図：感震部）	●ごみやほこりは、やわらかい布できれいにふき取ってください。 ●錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

1年に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
点火装置	●点火装置の作動はスムースですか。 ［点火不良の原因になります］	●点火装置に付着したごみやほこりは、防錆潤滑剤（CRC等）をかけてから、きれいな布でふき取ってください。 ●13ページ 点火ヒーターの交換のしかた を参照して、本体を取りはずしてから手入れをしてください。 ●錆が多いものや、汚れが取れず作動が悪い場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

定期点検のおすすめ（2シーズンに1回）

長期間使用されますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店、または、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

故障・異常の見分け方と処置方法 ―修理を依頼される前に―

故障・異常箇所	現象／原因	点火しない・しにくい	炎が大きくならない・消えてしまう	赤火や、すすが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	乾電池の消耗が激しい	処置方法
しん	しんの出過ぎ。	○		○		○						しんを下げて、炎を調節する。
	しんの出が少ない。	○	○			○				○		しんの高さを調節する。（10ページ参照） 新しいしんと交換する。
	油タンク内に水が入っている。 しんが水を含んでいる。	○	○					○	○	○		新しいしんと交換する。 油タンクの水を抜き、きれいな灯油ですすぎ洗いする。
	しんにタールがついている。	○	○	○	○	○		○	○	○		しんの手入れをする。（14ページ参照）または、新しいしんと交換する。 油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
燃焼筒・炎筒	燃焼筒がしんの上にのっている。			○		○	○	○				点火してから必ず燃焼筒つまみを持って左右に2～3回動かす。
	燃焼筒の変形。			○		○	○					燃焼筒の下部がうまく揃っているかを確かめる。（揃いが悪い場合は販売店に連絡する。）
	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○					しん調節器の上面のタール・ごみを取りのぞく。
	窓雲母の破れ、はずれ。			○		○	○					新しい窓雲母に交換する。（13ページ参照）
燃料	灯油が変質している。（汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など）	○	○		○	○		○	○	○		正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○		正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
乾電池	乾電池が消耗している。	○										新しい乾電池に交換する。（6ページ参照）
	正しく入れていない。	○									○	正しく入れ直す。（6ページ参照）
点火装置	点火装置のコードがはずれている。	○										コードがはずれているときは正しく差し込む。 その他は販売店に連絡する。
	点火装置がショート（短絡）している。	○									○	ショートしないように直す。 不明の時は販売店に連絡する。
点火ヒーター	点火ヒーターのフィラメントの形状が正常でない。切れている。	○										11ページ 点火ヒーター を参照して正しく直す。 点火ヒーターを交換する。
置台	置台に、ごみ、ほこりがたまっている。			○								置台を掃除する。

●この表以外の不具合があるときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

- 替えしん、点火ヒーター、窓雲母、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 部品が販売店にない場合は、別紙の [お客様相談窓口一覧] までお問い合わせください。

⚠注意	しんなどの交換部品は、必ずトヨストーブ純正部品(指定部品)を使用してください。 純正部品を使用しないと、ストーブの性能を損なうばかりでなく、故障や予想できない事故が発生するおそれがあります。	 指示

部品交換のときの注意

- **ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけど、けがなどしないよう注意しておこなってください。**
  ①手をやけどしないように、ストーブは消火し、温度が充分下がるまで待ってください。
  ②乾電池は必ず電池ケースからはずしてください。
  ③手をけがしないように、手袋をはめてください。
- **不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店か、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）などのいる販売店で修理を依頼されることをおすすめします。**

しんの交換のしかた

トヨストーブ純正適合しん

トヨ耐熱しん第125種	商品コード:12012807

しんの交換方法・注意内容は、**トヨ耐熱しん**に添付されている取扱説明書をお読みください。

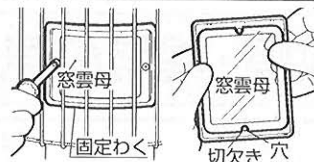


JIS適合検査合格品はこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

窓雲母の交換のしかた（ビニールなどの可燃性のものは絶対に使わないでください。）

窓雲母	商品コード:12014902

- 窓雲母が汚れたり、破損した場合は、炎筒に付いている「固定わく」を止めているねじ2本を取りはずし、固定わくを取りはずしてください。新しい「窓雲母の切り欠き」と「固定わくの穴」を合わせてから、炎筒にねじで固定してください。



燃焼筒の交換のしかた

燃焼筒	商品コード:12012806

- 燃焼筒の構成部品が、変形していたり、燃焼筒の下部がうまく揃っていない場合は、お買い求めの販売店、または別紙の [お客様相談窓口一覧] までお問い合わせください。

乾電池の交換のしかた

- **6ページ [乾電池を取り付ける] を参照して、必ず2個とも市販の新しい乾電池〔単二形乾電池〕に交換してください。**
- 取りはずした古い乾電池は、表示してある使用推奨期限内は、電池能力が残っていれば他の製品に使用できますので、再利用されることをおすすめします。

点火ヒーターの交換のしかた

点火ヒーター	商品コード:11027112（緑パック）

- 点火ヒーターの交換をするときは必ず、乾電池を電池ケースから取りはずしてください。乾電池を入れたままおこないますと、やけどをすることがあります。

1 電池ケースカバーを取りはずし、乾電池を取り出してください。
（図：電池ケースカバー）

2 「緊急消火レバー」を押し下げて、対震自動消火装置を作動させてください。
（図：緊急消火レバー、目印）

3 体と油タンクの接合部の体止めねじ3本を取りはずしてください。
（図：体止めねじ）

4 炎筒をゆっくりと持ち上げて、炎筒と燃焼筒を取りはずしてください。
（図：炎筒）

5 片手でヒーターホルダーをつまみ、点火ヒーターを押しつけながら回して、ヒーターホルダーから抜き取ってください。
（図：点火ヒーターの凸部、ヒーターホルダーの溝、ヒーターホルダー）

6 片手でヒーターホルダーをつまみ、新しい点火ヒーターの凸部をヒーターホルダーの溝を通すように入れたら、押しつけながら回して、点火ヒーターの凸部を、ヒーターホルダーの凹部にはめ込んでください。
- **点火ヒーターのフィラメントに、指を触れて変形させないようにしてください。**

（図：点火ヒーターの凸部、ヒーターホルダーの溝、ヒーターホルダー）

7 炎筒をかぶせ、体止めねじ（3箇所）で固定してください。燃焼筒と乾電池を元通り正しく取り付けてください。

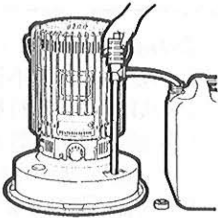
8 燃焼筒つまみを軽く左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。

保管（長期間使用しない場合）

⚠注意	長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて、電池ケースから乾電池を取りはずしてください。 傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。 火災のおそれがあります。

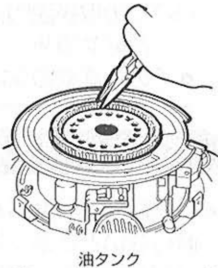


1 油タンク内の灯油を抜き取る。



- 油タンクの給油口ふたをはずし市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
- 油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。

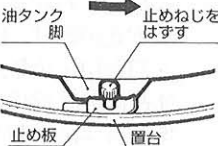
2 しんの手入れをする。（から焼きクリーニング）



お願い
- しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。
- しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。

①13ページの 点火ヒーターの交換のしかた の1～4項を参照して本体を取りはずし、しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。
②前項1の手順で油タンクの灯油を抜き取ってください。
③本体を元通りに取り付けてください。
④通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
⑤火力が小さくなったら、しんを一杯に上げて自然に消火するまで燃やしきってください。

3 置台を取りはずし掃除する。



置台の止めねじを取りはずし、油タンクを矢印の方向に回して置台を取りはずし、置台の上のほこりや汚れを取り除いてください。
取りはずした置台は、必ず元通りに取りつけてください。

4 電池ケースから乾電池を取りはずす。

乾電池を取りつけたまま保管すると、液漏れしてストーブを腐食させることがあります。

5 対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

6 点検、掃除をする。

①11ページの 点検・手入れのしかた の項目にしたがって、点検、手入れ、掃除をしてください。
②ストーブの各部品は、よく掃除して、いたんでいるものは新しいものに交換してください。
③ストーブの汚れは、ぬれた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

7 収納する。

包装箱に入れて、湿気の少ない場所に保管してください。
「取扱説明書」や「保証書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い
- 高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。
  錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。

- **灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない（使いきる）ようにしてください。**
- 取りはずした乾電池は、表示してある使用推奨期限内は電池能力がのこっていれば他の製品に使用できますので、再利用されることをおすすめします。

廃棄するとき

本ページの 保管（長期間使用しない場合） の1項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取り、電池ケースから乾電池を取りはずして廃棄してください。

仕　様

型式の呼び	KS-67A
種類	自然通気形開放式石油ストーブ しん式・自然対流形
点火方式	電池点火〔単二形乾電池2個・別売〕
点火ヒーター	商品コード　11027112 品番　1531003014
使用燃料	灯油（JIS1号）
最大燃料消費量	0.647L/h
暖房出力	6.66kW
油タンク容量	7.2L
燃焼継続時間	約11.5時間

外形寸法（置台を含む）		高さ	589.6mm
		幅	498mm
		奥行	498mm
質量			約13kg
しん	種類		普通筒しん トヨ耐熱しん第125種
	呼び寸法	内径	120mm
		厚さ	3.5mm
		吸上量	170%
安全装置			対震自動消火装置（しん降下式）

お手入れ・保管

アフターサービス

保証について

●添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
★保証期間は、お買い求めの日より１年間です。

お願い

次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんので注意してください。
（１）変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
（２）ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかなかったために起こった故障や事故。
（３）純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったり、乾電池の電圧不足や、点火ヒーターの断線による故障。
（４）消耗品（乾電池、しん、点火ヒーター、窓雲母）の故障。
（５）この取扱説明書や、本体貼付ラベル類による危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。
●その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

●「故障・異常の見分け方と処置方法」(12ページ)に従って、処置をおこなってください。
直らないときは、使用を中止し、必ずお買い求めの販売店に修理を依頼してください。
●下記の事項を連絡してください。
①品名…石油ストーブ（自然通気形開放式石油ストーブ）
②型式の呼び…KS−67A
③お買い求め年月日
④故障の状況（できるだけ具体的に）
⑤おなまえ，おところ，電話番号
●修理に際しましては、保証書を提示してください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎていても、依頼により有料で修理させていただきます。
●修理料金は、技術料，部品代，出張料などで構成されています。

補修用性能部品について

●石油ストーブの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打切り後６年です。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてご不明な点は、お買い求めの販売店、または、もよりの お客様相談窓口一覧 （別紙参照）までお問い合わせください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　　式	KS−67A	お買い求め年月日	年　　月　　日
お買い求め店名	（電話番号）（　　　）　－		

株式会社トヨトミ

本　社　名古屋市瑞穂区桃園町５番１７号
〒467−0855　TEL〈052〉822−1144
FAX〈052〉822−2742